

6 期待される施策の効果と今後の展開

観光交通は、1年のうち特定の期間だけに集中する特異な交通行動である。そのため、既存の調査手法では観光交通行動の実態を把握することは困難であり、これまでの実績を見ても、観光交通を定量的に把握した実態調査は少ないのが現状である。

その中で、今回、京都をモデル地として実施した、アンケート調査とプロブパーソン調査を連携させた実態調査によって、観光客の意見や詳細な交通行動を把握することができた。

本調査手法は、観光交通の実態の把握が困難である国内の歴史都市において、実態把握調査のモデルケースになると考えられる。

本調査手法を用いることにより得られた知見と今後の施策の展開を以下に示す。

施策のポイント	期待される施策とその効果	今後の展開
公共交通優先の観光地づくり		
観光地へのアクセス 利便性を向上	<p>鉄道の延伸 バス路線の強化</p> <p>公共交通での観光地間の移動が容易になることで、公共交通主体の観光行動の活性化が見込める。</p>	本調査によって、京都市における地下鉄東西線延伸が観光行動を活発にした効果が確認できた。この結果は、公共交通機関や観光ツアーのルートづくりの参考資料となる。
効果の高い媒体での P&R 情報発信の充実	<p>観光雑誌での P&R の広報 旅行会社と P&R の連携</p> <p>P&R の認知度が上がり利用者が増加することで、自動車主体の観光から公共交通主体の観光への転換が見込める。</p>	P&R は施策の周知が十分ではなく広報が必要であるということ、京都観光の事前情報源として観光雑誌を挙げている観光客が多いことが把握できた。この結果より、P&R 推進には、観光雑誌での P&R の広報が有効であるという知見が得られた。
鉄道の利便性向上		
観光客向けの企画切符 (フリーチケット)の 充実	<p>フリーチケットに関する案内標識(購入場所, 購入方法, 利用できる交通機関)の設置</p> <p>フリーチケットの購入方法・利用方法がわかりやすくなり、観光客のニーズの一つであるフリーチケットの充実が実現できる。</p>	本調査によって、観光振興のためのフリーチケット販売について以下の2つの知見が得られた。 <ul style="list-style-type: none"> ・観光客のニーズが高い公共交通のフリーチケットの充実 ・観光地における、購入方法を含めたフリーチケットに関する情報提供
観光地から鉄道駅までの 行き方の案内	<p>観光地～駅間の道路案内看板の設置</p> <p>駅～観光地間の経路がわかりやすくなり、「駅の場所がわかりにくい」という不満を解消できる。</p>	本調査手法(プロブパーソン調査)では、観光客の観光地～駅間の移動経路の把握が可能であり、駅への案内看板設置箇所の検討を行う際の有効な資料となる。

バスの利便性向上		
バスの輸送力の増強	<p><u>観光シーズンの需要にあっつきめ細かい臨時バスの運用</u></p> <p>バスでの移動が容易になるとともにバス車内の混雑が解消することで、バスの利便性・快適性が向上する。</p>	本調査手法によって、輸送力の不足している路線の特定が可能である。
バスの利便性向上		
バス停やバス系統に関する情報の案内	<p><u>バス停の案内板の設置</u></p> <p><u>バス系統情報案内板の充実</u></p> <p><u>バス路線に関するチラシの配布</u></p> <p>観光客が乗りたいバスのバス停の位置、バス系統がわかりやすくなることで、バス停での迷いが減少する。</p>	本調査手法によって、バス停の位置や乗るべきバス系統の情報が不足している観光地の特定が可能である。
道路混雑に影響されにくいバスの運行	<p><u>東山地区周辺のバス優先・専用レーンの設置</u></p> <p>バスのダイヤ通りの運行が可能になり、バスの利便性が向上する。</p>	本調査手法によって、道路渋滞等のために定時性が確保されていないバス路線の特定が可能である。
自動車利用の効率化		
よりわかりやすい経路案内	<p><u>観光地までの道路案内板の増設</u></p> <p><u>カーナビとの連携による情報提供</u></p> <p>観光地までの経路がわかりやすくなることで、観光地周辺での迷いが減少する。</p>	本調査手法（プローブパーソン調査）によって、観光客の道路利用経路及び詳細行動実態の把握が可能であり、道路標識や駐車場案内等、観光客のニーズに沿った設置箇所の検討を行う際の有効な資料となる。
駐車場の場所情報や空満情報といった案内の充実	<p><u>駐車場までの案内標識の設置</u></p> <p><u>駐車場の満空情報案内板の設置</u></p> <p>駐車場に関する情報が得やすい環境が実現することで、駐車場を探して迷う、駐車場で待つという観光客が減少する。</p>	
快適な歩行空間の確保		
快適な歩行空間の確保	<p><u>歩行空間のバリアフリー化</u></p> <p><u>歩道の拡幅</u></p> <p><u>東山、嵐山の観光シーズン限定自動車流入規制</u></p> <p>歩行者が自動車等を気にせず、安全・快適に歩行できる空間が実現することで、京都の観光資源である街並を楽しんでもらえる。</p>	本調査手法によって、観光にとって重要な歩行空間の快適性や安全性が確保されていない場所、道路の特定が可能である。

以上のように、アンケート調査とプローブパーソン調査を連携させた本調査のノウハウは、他都市においても応用が可能であり、観光行動を定量的に把握するための手法の発展・開発が期待できる。

また、京都市における地下鉄東西線延伸が観光行動を活発にした効果や、P&R 施策推進のための効果的な広報の手法といった、本調査で得られた知見を活用することにより、公共交通のアクセス利便性の向上施策、観光ツアーのルート作り、効果的な P&R 施策の実施など、他都市においても観光交通の円滑化や観光満足度の向上の実現に繋がることを期待できる。